

平成26年度 学校評価実施報告書

(別添様式3)

3 2回目評価

学校名(京都市立元町小学校)

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価日	平成27年2月16日	評価日	平成27年3月5日
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
1	確かな学力	自分の言葉で自分のおもいや考えを表現 わかる授業の創造 家庭学習の習慣化	国語科での言語活動のさらなる充実、各学級年2回の授業研究 算数の複数指導体制 自分で考えた課題に取り組む家庭学習	児童の話す・聞く態度の変容・ジョイントプログラムの結果 解答に至るまでの自分の考えを表現 日々の家庭学習の確認 家庭学習は、87.2%の児童ができていますと回答している。	⇒	・言語活動の充実により主体的な授業づくりや読書の質にも効果が出てきている。 ・自分の考えを説明する取り組みをさらに充実させる。 ・自分の思考の流れを図や表を使って説明できつつある。 ・適切な家庭学習の課題を選択し、積極的に取り組む児童が増えてきた。	⇒	・すべての教科・領域でも自分の考えを根拠もって説明する取り組みをする。 ・「算数教室」や放課後などの課外学習で一人一人の課題に対応する。 ・一人一人に合った自学自習の方法を提示する。	・「放課後まなび教室」のさらなる充実に向けて、学校運営協議会のまなび部会と連携していく。 ・より学習を充実させるために、授業支援が必要であれば、学校運営協議会としても人材確保に協力する。
2	豊かな心	豊かな体験活動の実践 望ましい言葉づかいの徹底 豊かな心の育成	総合的な学習の時間における福祉教育の充実 学級だより、学校だよりによる啓発活動 ・たてわり活動の推進 元町ふれあい土曜塾への参加	総合的な学習の時間における福祉教育の学習成果 日々の児童の様子を検証 元町ふれあい土曜塾への参加状況 日常的に、子どもたちが人に対してやさしく接する姿が見られる。 学習中はしっかりできているが、他の場面では乱れていることがある。 いろいろな場面で、上級生が下級生にやさしく接することができている。	⇒	・福祉教育を通して、弱い立場の人々やいろいろな立場の人になって考えられるようになってきた。 ・言葉づかいに関しては、相手意識が不十分である。 ・たてわり活動を通して、上級生としてどうあるべきか、考えて行動できている。	⇒	・「出会い・ふれあう」ことの大切さを実感している。さらに、「出会い・ふれあう」場面を数多く設定していきたい。 ・学習の中だけでなく、正しい言葉づかいのシャワーを浴びられる環境づくりに努めていく。	・社会福祉協議会の支援を得て、学校運営協議会としても福祉教育を充実させていきたい。 ・元町ふれあい土曜塾は学校運営協議会のふれあい部会がサポートしているが、さらに充実させていきたい。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 体力づくり	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ ・運動部活動の実施 ・朝マラソンの取り組み	早寝・早起き・朝ごはんなどの生活アンケート めあてを明確にした朝マラソン・なわとびの実施状況 学年が上がるに従って、就寝時刻が遅くなってきている。 約半数の児童が運動部活動に参加している。	⇒	・受験を目指している子どもも少なくなく、夜遅くまで学習している。 ・「マラソン週間」などの強化週間以外に取り組んでいる姿をあまり見ない。	⇒	・基本的生活習慣の確立には、個々の子どもの課題に応じた取り組みが必要。保護者の理解を得て、家庭と学校が協力して取り組んでいきたい。	・学校運営協議会のふれあい部会がサポートしている元町ふれあい土曜塾で体力向上につながる取り組みを進めていく。
4	独自の取組	百人一首 伝統文化 情報発信の充実	毎週月曜日のモジュールタイム(基礎基本の時間)での取り組み 地域人材の活用 積極的なホームページの更新	学級や全校集会でのカルタ大会 総合的な学習の時間における伝統文化の学習成果 学校ホームページへのアクセス数 上の句を聞いただけで、下の句のカルタを取る子どもが増えてきた。 学習を通して、伝統文化に興味・関心が増してきたようである。 年間23,000回を超えるアクセス数	⇒	・伝統文化を守ろうとする意欲や地域を愛する気持ちにつながってきていると実感している子どもが増えてきている。 ・HPのアクセス件数から、学校に目を向けていただいている保護者や地域の皆様を着実に増えつつある。	⇒	・カルタ大会以外に百人一首の学習成果を発表する場を工夫していきたい。 ・地域の方々に指導者となっていただいているので、地域を愛し、地域を誇りに思う子どもに育ちつつある。	・より学習を充実させるために、地域在住の伝統文化に携わっておられる方による授業支援が必要であれば、学校運営協議会としても人材確保に協力する。

4 総括・次年度の課題

<p>百人一首の取り組みについては、当初、小学生には難しいのでは…？というご意見もありましたが、取り組み始めて4年になります。子どもたちも普段、使わないことばや抑揚に興味を示し、どの学年の子どもも楽しそうに取り組んでいる姿が見受けられます。毎週月曜日の基礎基本の時間に一首ずつ取り組んでくことができました。今では、3年生以上の学年は全て学習し終えました。今年度のたてわりグループで全校百人一首カルタ大会では、1年生の児童でも、上の句を聞いただけで下の句のカルタをとる児童もいて、高学年児童と対等に競っていました。百人一首の取り組み以外にも、伝統文化に携わっておられる地域の方々をもっと発掘していき、地域を愛し、地域を誇りに思う子どもに育てていきたいと思います。伝統文化の取り組みは、元町小学校の特色ある取り組みとして、さらに発展させていきたいと考えています。</p> <p>HPIについては、積極的に更新しています。アクセス件数も右肩上がりです。学校に目を向けていただいている保護者や地域の皆様が着実に増えつつあると実感しています。本校の取り組みへの期待の表れと捉えています。また、学校評価を通じ、保護者や地域の方に本校の教育活動についての理解を深めていただくことができましたと思っています。次年度は、評価を活かせるよう、家庭・地域との連携をより一層深め、さらに学力向上に向けて、家庭学習、自主学習の習慣化や基礎基本の定着など具体的な取り組みを進めていきたいと考えています。そして、信頼関係の構築のためにも、学校評価、研究課題はじめ、様々な課題・情報の共有化が十分になされていたかどうかなど、しっかり反省、検証して次年度への意識改革へとつなげていきたいと考えています。</p>
--